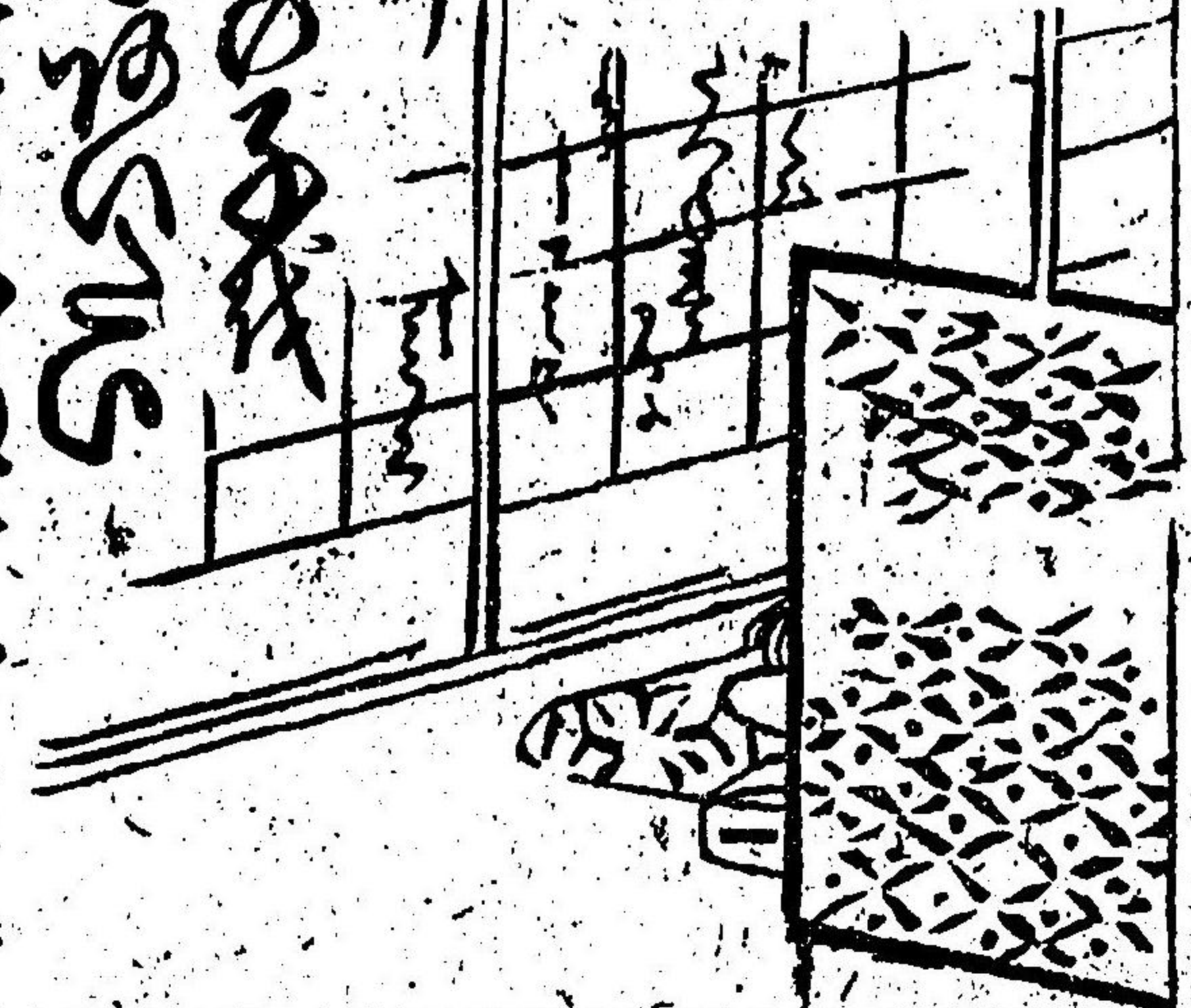




「十の九はかまへのいかにいふこと  
考まんばはかまへのいかにいふこと  
ゆゑにちねぬあしていかにいふこと  
おのちかまへのいかにいふこと  
ひまに今かまへのいかにいふこと  
あつていかにいふこと  
いかにいふこと  
あつていかにいふこと  
あつていかにいふこと  
あつていかにいふこと



「きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの  
きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの  
きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの  
きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの  
きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの  
きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの



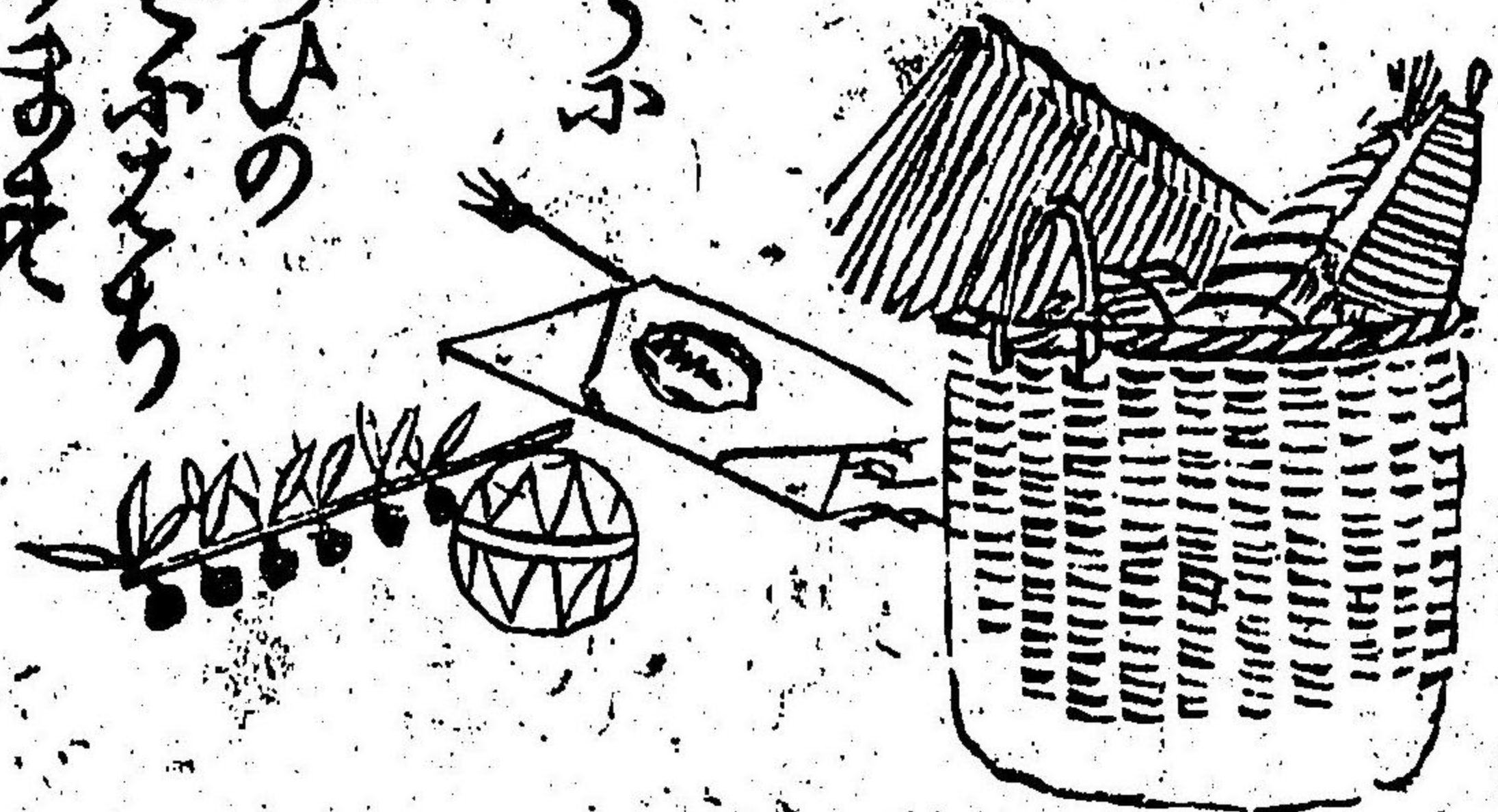
十  
五

「きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの  
きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの  
きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの  
きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの  
きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの  
きふちんはくろしよゝの  
しらべのさかすまの



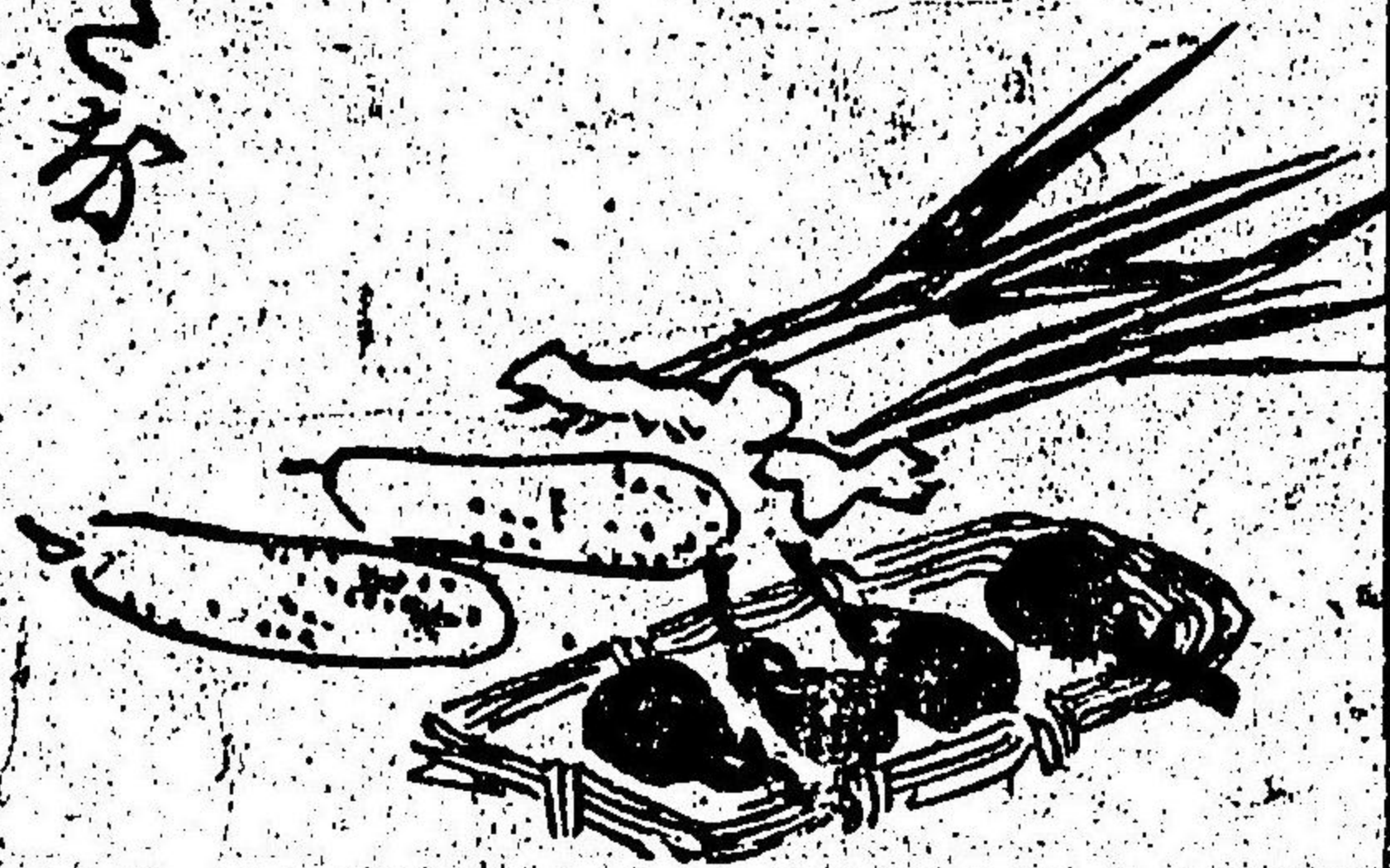


Emberos Overm  
paravos the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same



十  
五  
十

まろるまとまろるの  
まろるまとまろるの  
the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same  
the same the same the same the same the same the same the same

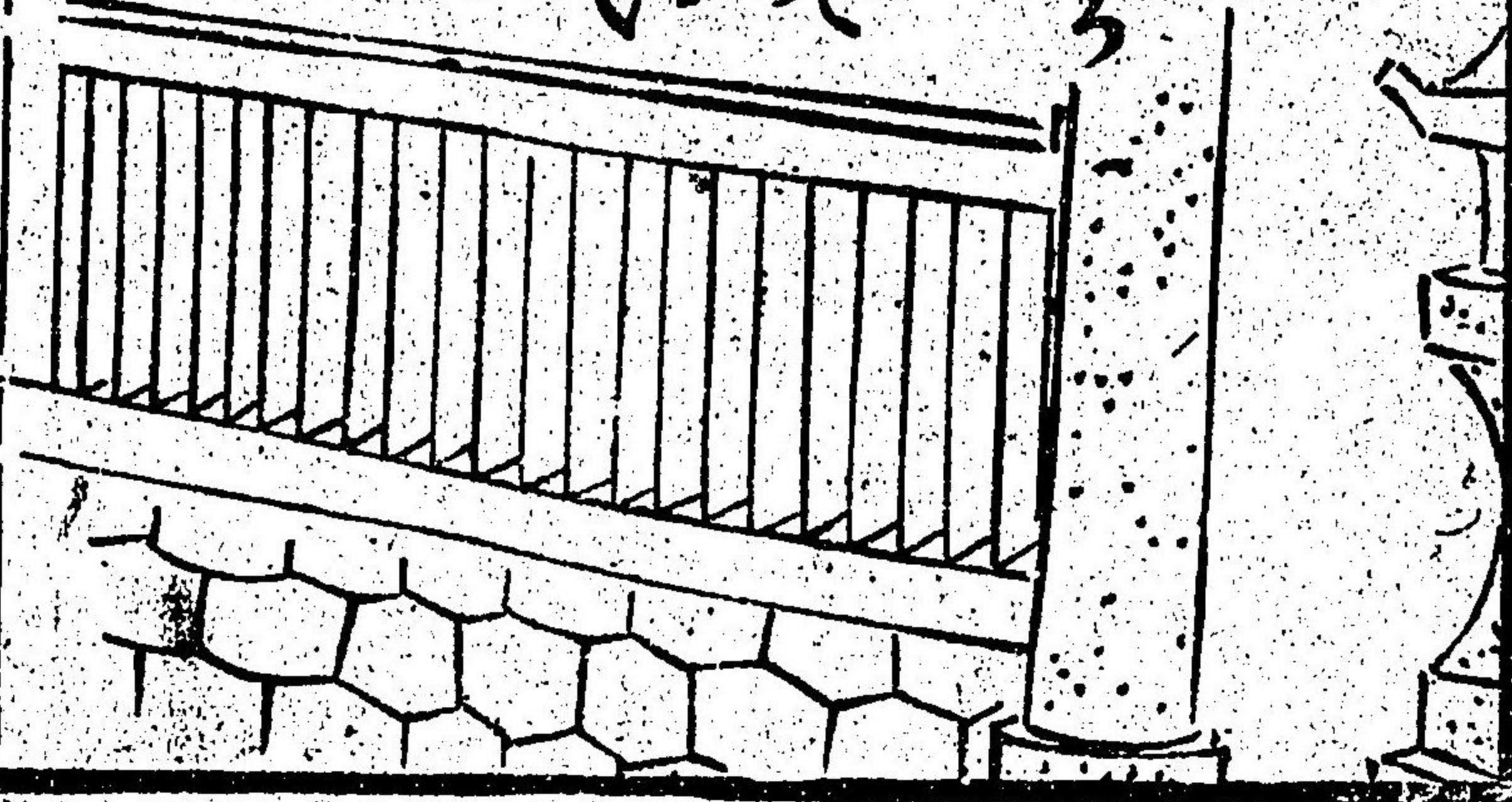




あらくおたのしき事  
 きんかへんきん  
 たりひらひらきん  
 いりまきんの  
 おたのしき事  
 きんかへんきん  
 うきおたのしき事  
 ちりりうきおたのしき事  
 たりりうきおたのしき事



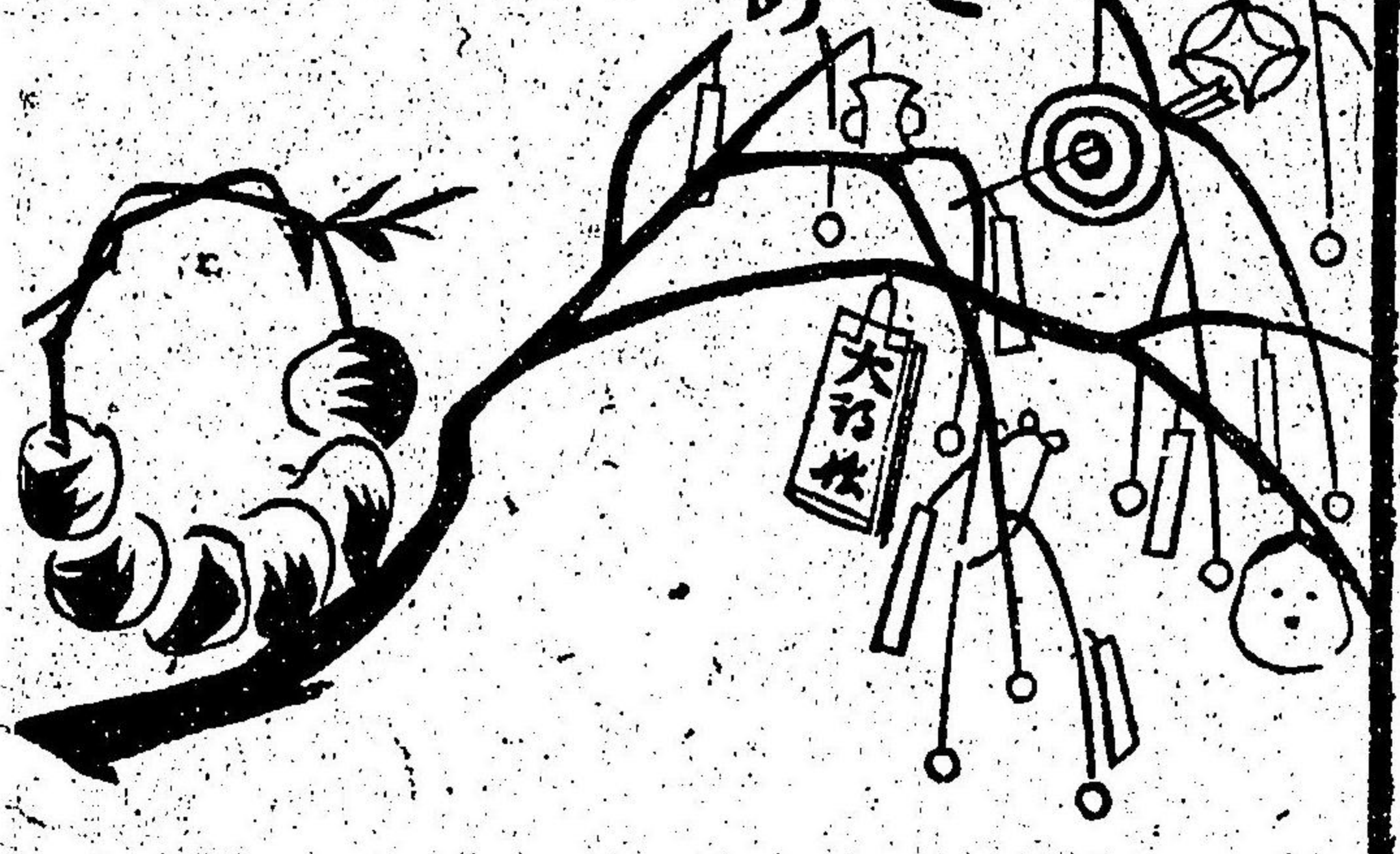
あらくおたのしき事  
 きんかへんきん  
 たりひらひらきん  
 いりまきんの  
 おたのしき事  
 きんかへんきん  
 うきおたのしき事  
 ちりりうきおたのしき事  
 たりりうきおたのしき事



かおとあんなちじちん  
 くらたきよかきふらふら  
 あじいあじいあじいあじいあじい  
 きよきよきよきよきよきよ  
 たら切きうららららららららら  
 てらききうんきききききききき  
 ちうのちうのちうのちうのちうの  
 きききききききききききききき  
 せんせんせんせんせんせんせんせん  
 何いせうり



何いせうり  
 まのりのまのりのまのりのまのり  
 がくのむひあゝま出たまり  
 何いこのこれむやの花火七月の  
 ねまきうりたまきうりの  
 何のきききききききききき  
 何のむきききききききききき  
 何いせうり  
 何いせうり



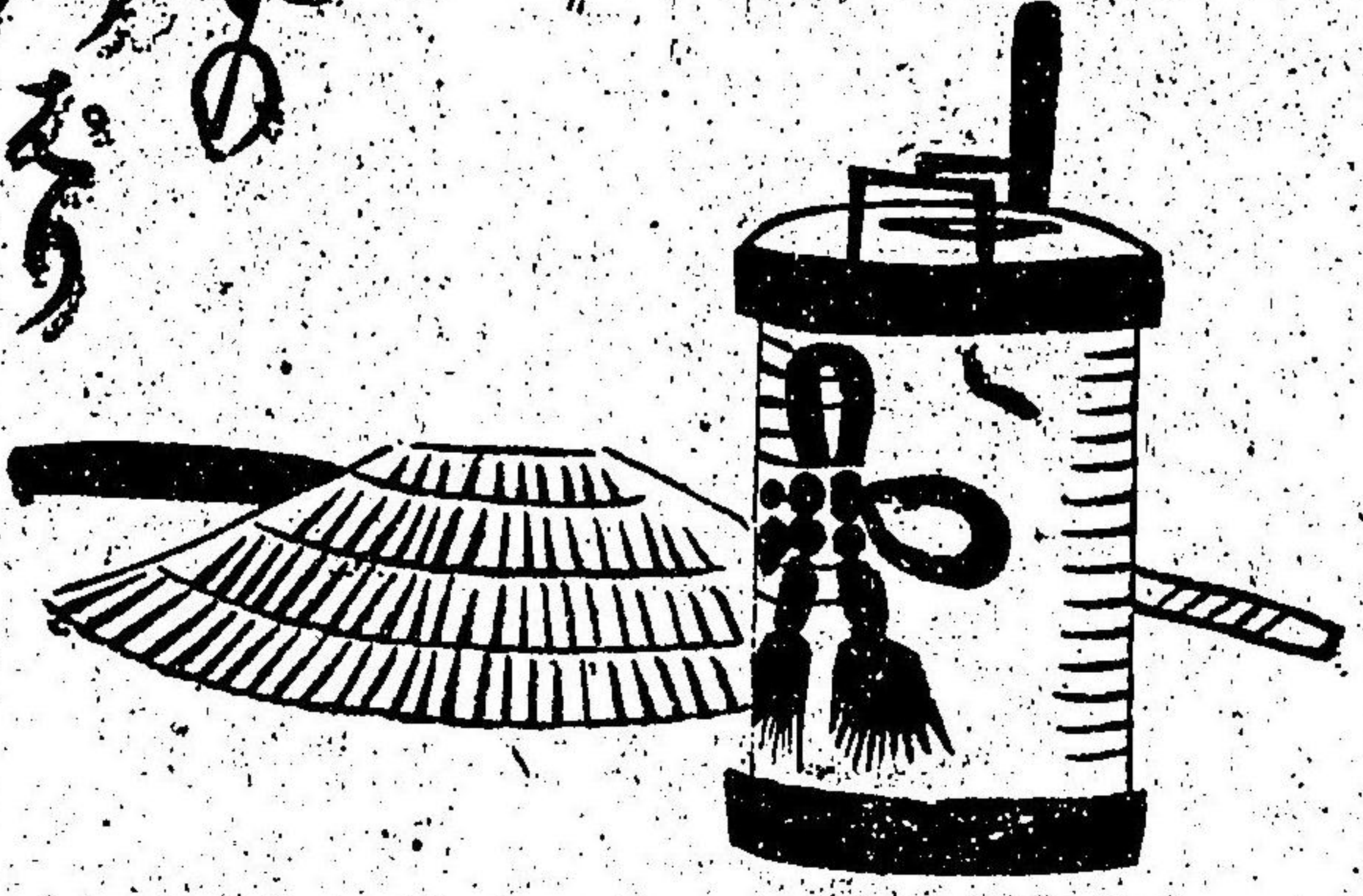


「おまゝさんへんぐり」  
 志願んをあれはひよちれ、  
 是あひやれし母存ひつ  
 今りちるんへんぐりへんぐり  
 中りまぬぬぐりへんぐり  
 いる舞うのひよちれは  
 こそくへんぐりまぬぬぐり  
 こそのへんぐりへんぐり  
 まぬぬぐりへんぐり  
 へんぐりへんぐりへんぐり



十号

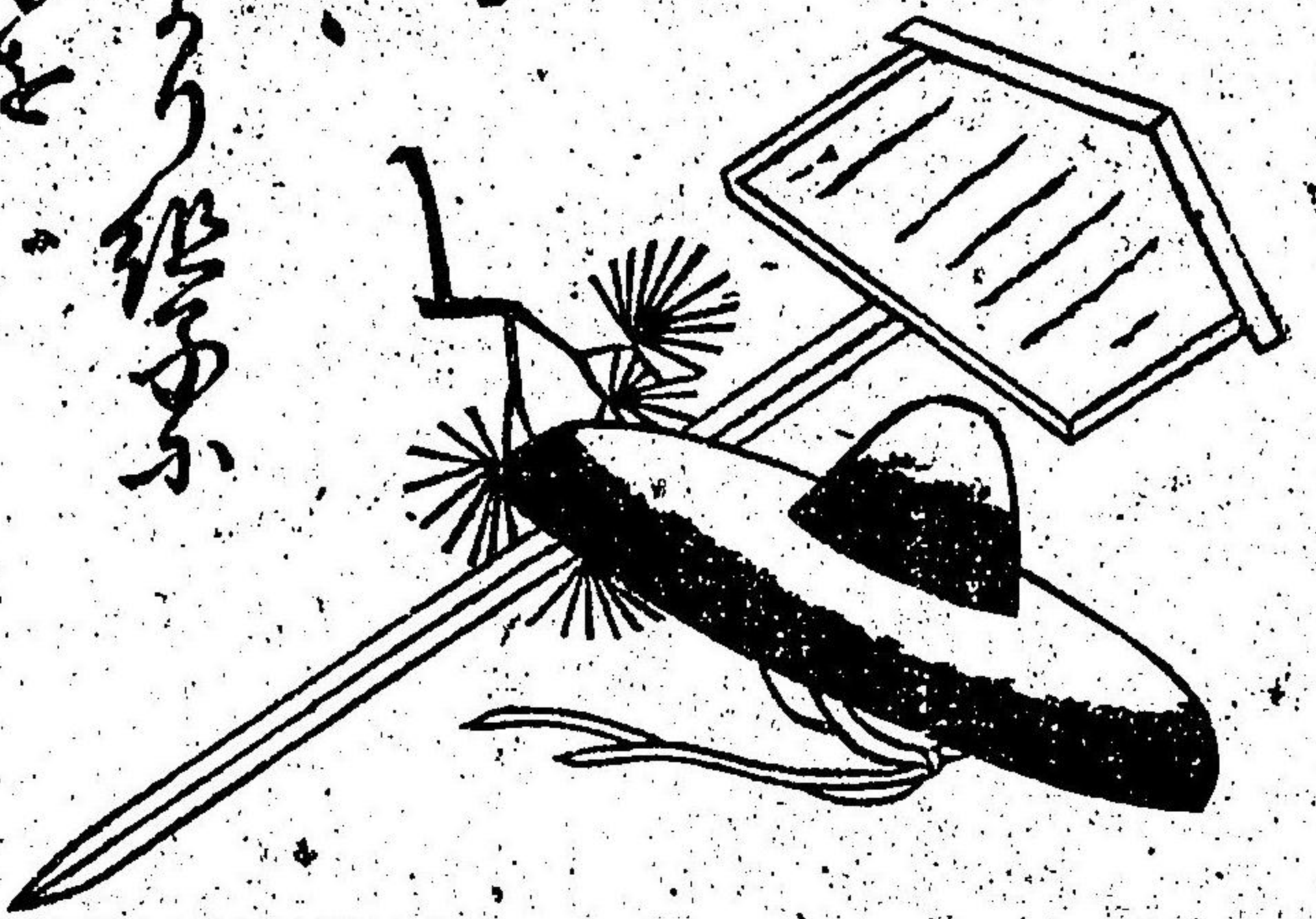
「おまゝさんへんぐり」  
 志願んをあれはひよちれ、  
 是あひやれし母存ひつ  
 今りちるんへんぐりへんぐり  
 中りまぬぬぐりへんぐり  
 いる舞うのひよちれは  
 こそくへんぐりまぬぬぐり  
 こそのへんぐりへんぐり  
 まぬぬぐりへんぐり  
 へんぐりへんぐりへんぐり



文の開化のちゆりのの車や  
 蒸気動力車や  
 紙箱で氷や牛乳や  
 洋食や西洋的の牛や同じ  
 だしおんせん白き日まん  
 ちりや小字しんきや  
 合茶や尾をさうらん家  
 通学校日の丸なまやつほ  
 ろりちんびんさびのい  
 ちのいげ



田子の被ふた盤にせん  
 いまさらしとらとあるぞ  
 つめとああるうきとめ  
 毒とろしあふとらふ  
 乳ふさといき藤のゆひ  
 かせふもあてぬやとあ  
 被ふかちんといきあふ  
 さかからむひまよふま  
 下知あせむた盤のま  
 とあれるとあふさふ

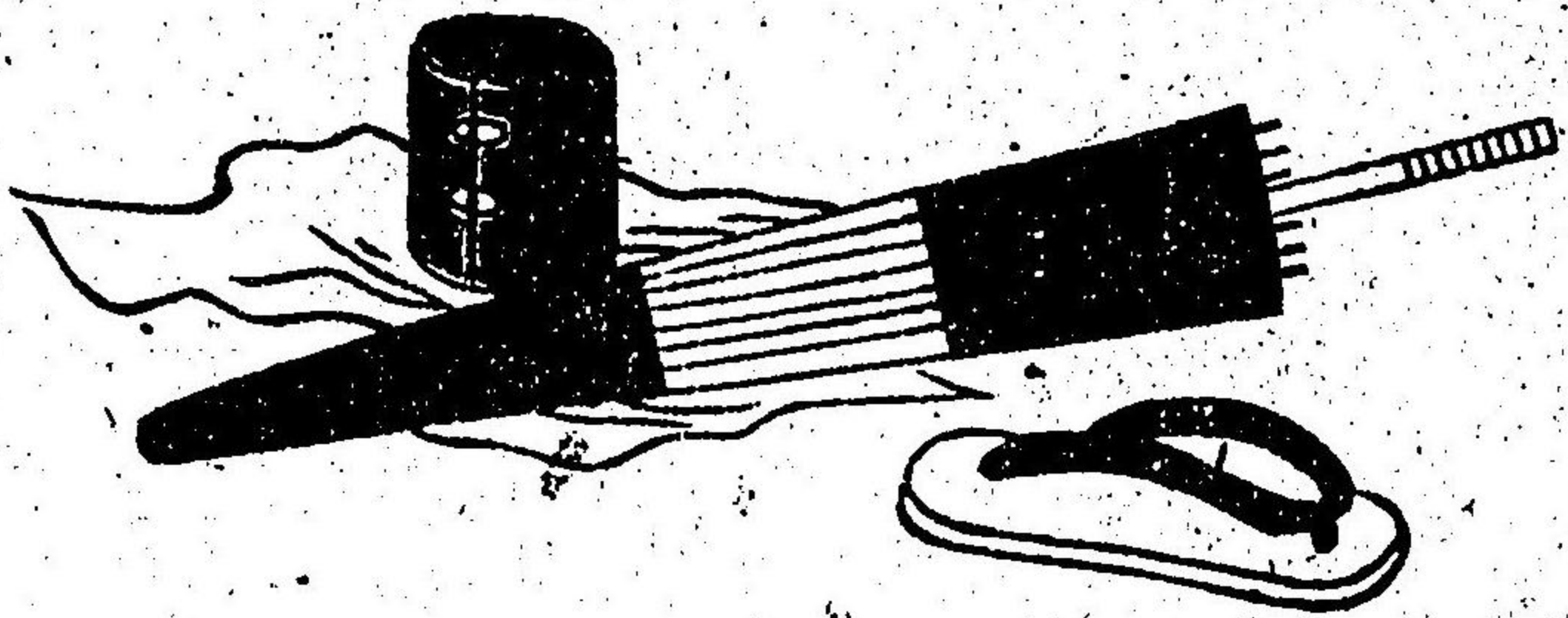


「この下二ねんあうちふ  
 ありきでいふ大さうりり  
 わげさうでの名へあまきん  
 これううあまきんにつま  
 ぶやそくふのあきやん  
 いりません同さうけとんか  
 ほとあかんつあまきんとあうり  
 こふさ取てかきあのゆもあつて  
 合さうへおこんまあつて牙清く  
 彩道こまか何指あつてさうと  
 せうりてい

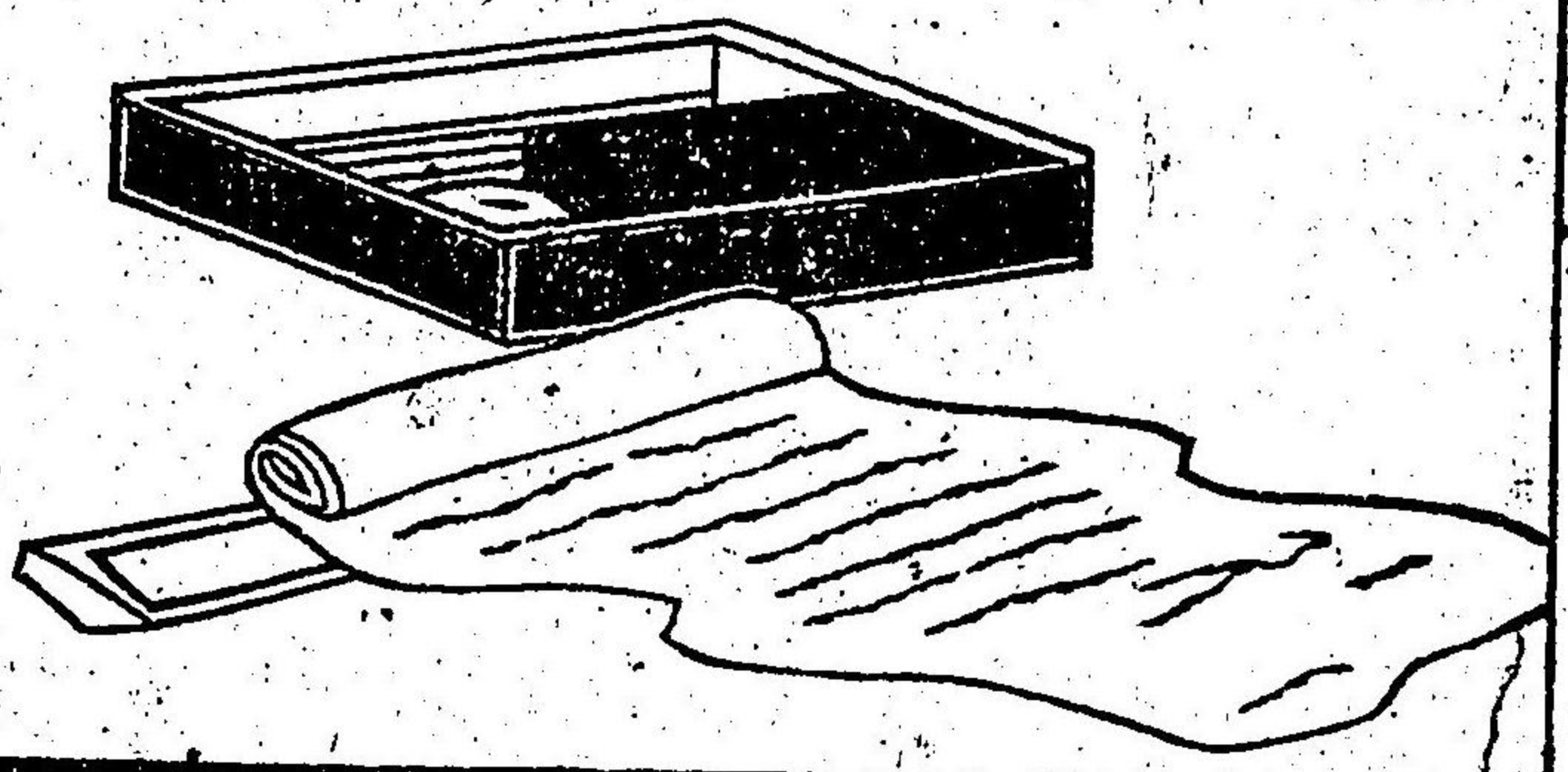


十号

「おくまへへ<sup>あ</sup>き尾よく<sup>あ</sup>まのく<sup>あ</sup>ら  
 とうふ<sup>あ</sup>あめ<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>か<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>  
 あまきんあまきんあまきん  
 せいせうなあまきん  
 るふののあまきん  
 をあえのめつうひさうで  
 こまきんあまきんあまきん  
 あまきんあまきんあまきん  
 ままきんあまきんあまきん  
 ねしあまきんあまきんあまきん



うすしき書ふかきなる多し  
 良しあるべきのなるふくむ  
 こむすくふくまかしてと  
 考へんてううなるうなる  
 ちかかろふくまのちくのび  
 ぶぬひきつるふせ家も月がす  
 ころがむひつるまあとりかげ  
 うきしるここのかろくも  
 ぶふもけふもくんと  
 きぬくふのふくむのふく



<small>活字</small> <small>刊</small> 文選字引 全	<small>活字</small> <small>刊</small> 新撰會玉篇 全
<small>活字</small> <small>刊</small> 開化用文証 全	<small>活字</small> <small>刊</small> 新撰浮世都々一
<small>活字</small> <small>刊</small> 二一天作 全	<small>活字</small> <small>刊</small> 新撰女侍草子
<small>活字</small> <small>刊</small> 開花百二首 全	<small>活字</small> <small>刊</small> 歌海系図集

明治十三年九月十三日末届 定価金二錢

編輯兼 出版人 駒井友三郎

海草区海草町廿八番地

